

シラバス

2025年度版



柔道整復医療科 3年

学校法人 赤門宏志学院

仙台赤門医療専門学校

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	塚本 直太 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 3年
科目名	柔道整復臨床理論Ⅰ	曜日・時間	月曜日 9:00～

【授業概要・目標】 柔道整復学の臨床に必要な知識を習得する。 骨折についての解剖学的な理解を深める。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	柔整臨床に関する基礎 人体解剖学概説・生理・筋
2	柔整臨床に関する基礎 骨格系Ⅰ
3	柔道整復に関する基礎 骨格系Ⅱ・運動
4	柔整臨床に関する基礎 筋系Ⅰ
5	柔整臨床に関する基礎 筋系Ⅱ
6	柔整臨床に関する基礎 筋系Ⅲ
7	柔整臨床に関する基礎 骨格系Ⅲ
8	柔整臨床に関する基礎 骨格系Ⅳ
9	柔整臨床に関する基礎 骨格系Ⅴ
10	柔整臨床に関する基礎 運動Ⅱ
11	柔整臨床に関する基礎 運動Ⅲ
12	柔整臨床に関する基礎 骨折Ⅰ
13	柔整臨床に関する基礎 高齢者Ⅰ 機能訓練Ⅰ
14	柔整臨床に関する基礎 高齢者Ⅱ 機能訓練Ⅱ
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	総合

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	柔整臨床に関する基礎 頭部の損傷Ⅰ
2	柔整臨床に関する基礎 頭部の損傷Ⅱ
3	柔整臨床に関する基礎 上腕部の損傷
4	柔整臨床に関する基礎 腰部の損傷
5	身体の構造と機能①
6	身体の構造と機能②
7	身体の構造と機能③
8	身体の構造と機能④
9	身体の構造と機能⑤
10	身体の構造と機能⑥
11	身体の構造と機能⑦
12	身体の構造と機能⑧
13	身体の構造と機能⑨
14	後期復習
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	全期復習

評価方法	筆記試験の評価
授業の進め方	特に国家試験でポイントとなる項目を重視して授業を進める。 学生の習熟度に応じて授業を進行する。
注意 (学生に望むこと)	柔道整復学に加えて解剖学・人体の構造についても学習すること。
テキスト・参考書	「柔道整復学・理論編」「解剖学」(南江堂)

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	高橋 武彦 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 3年
科目名	柔道整復臨床理論Ⅱ	曜日・時間	月曜日 10:40～

【授業概要・目標】 柔整の臨床に必要な基礎力、応用力をつける。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	診察1 視診 / 総論-1
2	診察2 触診 / 総論-2
3	診察3 検査法 / 総論-3
4	診察4 症状 / 総論-4
5	疾患1 呼吸器疾患 / 頭部・頸部の骨折・脱臼
6	疾患2 循環器疾患 / 胸部・上肢の骨折-1
7	疾患3 消化器疾患1 / 上肢骨折-2
8	疾患4 総合 / 総合
9	疾患5 消化器疾患2 / 上肢骨折-3
10	疾患6 代謝疾患 / 上肢脱臼
11	疾患7 血液疾患 / 上肢軟損
12	疾患8 神経疾患 / 下肢骨折
13	疾患9 感染症 / 下肢脱臼
14	疾患10 リウマチ、アレルギー疾患 / 下肢軟損
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	疾患・柔理総合-1
2	疾患・柔理総合-2
3	疾患・柔理総合-3
4	疾患・柔理総合-4
5	疾患・柔理総合-5
6	疾患・柔理総合-6
7	疾患・柔理総合-7
8	疾患・柔理総合-8
9	疾患・柔理総合-9
10	疾患・柔理総合-10
11	疾患・柔理総合-11
12	疾患・柔理総合-12
13	疾患・柔理総合-13
14	疾患・柔理総合-14
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	筆記試験、出席、授業態度、課題提出の総合で判定する。
授業の進め方	練習問題を中心に、各ポイントの確認、復習を行う。
注意 (学生に望むこと)	教科書の語句を正確に確認すること。
テキスト・参考書	柔道整復学理論編・実技編、一般臨床医学教科書、その他参考書。

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	専任教員 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 3年
科目名	臨床実習Ⅳ	曜日・時間	月曜日 3・4時限(前期)

【授業概要・目標】
 ①患者と適切なコミュニケーションがとれる。②施術準備(補助)ができる。③基本的な事項について診療録に記載ができる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	臨床実習前授業(Ⅰ)
2	臨床実習前授業(Ⅱ)
3	臨床実習(1)
4	臨床実習(2)
5	臨床実習(3)
6	臨床実習(4)
7	臨床実習(5)
8	臨床実習(6)
9	臨床実習(7)
10	臨床実習(8)
11	臨床実習(9)
12	臨床実習(10)
13	臨床実習(11)
14	臨床実習(12)
◆	—
15	臨床実習(13)

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	臨床実習(14)
2	臨床実習(15)
3	臨床実習(16)
4	臨床実習(17)
5	臨床実習(18)
6	臨床実習(19)
7	臨床実習(20)
8	臨床実習(21)
9	臨床実習(22)
10	臨床実習(23)
11	—
12	—
13	—
14	—
◆	—
15	—

評価方法	知識の習得・身だしなみ・参加意欲などを総合的に評価する。
授業の進め方	臨床に必要な知識の習得、施術見学、環境整備、施術準備(補助)などを中心に行う。
注意 (学生に望むこと)	積極的に実習に参加してもらいたい。
テキスト・参考書	なし

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	石垣 寛高 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 3年
科目名	柔道整復応用実技Ⅱ	曜日・時間	火曜日 9:00～

【授業概要・目標】

柔道整復に必要な技術、知識の習得

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-1
3	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-2
4	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-3
5	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-4
6	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-5
7	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-6
8	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-7
9	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-8
10	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-9
11	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-10
12	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-11
13	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-12
14	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-13
15	評価・点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-14
2	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-15
3	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-16
4	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-17
5	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-18
6	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-19
7	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-20
8	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-21
9	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-22
10	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-23
11	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-24
12	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-25
13	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-26
14	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-27
15	評価・点検

評価方法	実技試験、出席、授業態度、課題提出、筆記試験の総合で判定する。
授業の進め方	実技、内容の確認
注意 (学生に望むこと)	毎回内容の予習と復習をしっかりとすること。
テキスト・参考書	柔道整復学理論編 柔道整復学実技編

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	豊嶋 良一 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 3年
科目名	柔道Ⅲ	曜日・時間	前期)火曜日 10:40～ 後期)火曜日 14:40～

【授業概要・目標】 柔道Ⅱに引き続き、認定実技審査内容を含めた授業を進めます。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション、 認定実技審査について
2	投の形 手技3本指導、練習
3	投の形 腰技3本指導、練習
4	投の形 足技3本指導、練習
5	投の形 手技3本、 約束乱取り指導、練習
6	投の形 腰技3本、 約束乱取り指導、練習
7	投の形 足技3本、 約束乱取り指導、練習
8	認定実技審査内容の指導、 練習一①
9	認定実技審査内容の指導、 練習一②
10	認定実技審査内容の指導、 練習一③
11	礼法、受け身、投の形、 約束乱取復習及び練習
12	礼法、受け身、投の形、 約束乱取復習及び練習
13	前期実技試験内容説明、練習
14	前期実技試験一①
15	前期実技試験評価点検、 柔道の歴史など(国試内容含む)

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	前期習得内容復習
2	認定実技審査内容の指導、 練習一①
3	認定実技審査内容の指導、 練習一②
4	認定実技審査内容の指導、 練習一③
5	認定実技審査内容の指導、 練習一④
6	認定実技審査内容の指導、 練習一⑤
7	固技の動作(攻め方、守り方)
8	絞技指導、実践 落ちた場合の対処法
9	関節技(逆技)指導
10	寝技総合練習、指導
11	掛かり練習(打ち込み)、 自由練習(乱取)
12	柔道の試合と礼法・礼節
13	後期実技試験内容説明、練習
14	後期実技試験一①
15	後期評価点検

評価方法	実技試験、授業態度、認定実技審査の結果にて総合評価する。
授業の進め方	前期:「投の形」の高度な習得に重点を置きます。後期:認定実技審査に対応して の指導をします
注意 (学生に望むこと)	柔道実技では怪我をしないように毎回真剣に取り組むことを望みます。
テキスト・参考書	「投の形」と投技(乱取り)は講道館のDVDを使用します。

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	石垣 寛高 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 3年
科目名	柔道整復臨床理論Ⅲ	曜日・時間	火曜日 13:00～

【授業概要・目標】

柔道整復に必要な基礎・応用力の向上

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	運動の目的・表し方・身体運動と力学、公衆衛生活動・健康の概念・疾病予防、疾病・細胞障害についての確認
2	運動器・神経の構造と機能、感染症と消毒法、循環障害についての確認
3	復習-1
4	運動感覚・反射と随意運動、環境衛生、進行性病変についての確認
5	四肢と体幹の構造・運動-1、生活環境・衛生活動、炎症についての確認
6	四肢と体幹の構造・運動-2、母子・学校保健、免疫とアレルギーについての確認
7	復習-2
8	四肢と体幹の構造・運動-3、産業保健、腫瘍についての確認
9	四肢と体幹の構造・運動-4、成人・高齢者保健、腫瘍についての確認
10	四肢と体幹の構造・運動-4、精神保健、先天性以上についての確認
11	復習-3
12	姿勢、地域・国際保健・行政衛生・保健制度、病因についての確認
13	歩行、医の倫理・疫学、病因についての確認
14	運動発達、運動学習、医の倫理・疫学、運動器の病理についての確認
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価・点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	総合-01
2	総合-02
3	総合-03
4	総合-04
5	総合-05
6	総合-06
7	総合-07
8	総合-08
9	総合-09
10	総合-10
11	総合-11
12	総合-12
13	総合-13
14	総合-14
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価・点検

評価方法	筆記試験、出席、授業態度、課題提出の総合で判定する。
授業の進め方	練習問題を中心に、各ポイントの確認、復習を行う。
注意 (学生に望むこと)	教科書の語句を正確に確認すること。
テキスト・参考書	運動学、病理学、衛生・公衆衛生学、その他必要な資料

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	亀井 啓 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 3年
科目名	柔道整復応用実技 I	曜日・時間	水曜日 9:00～

【授業概要・目標】 競技者の外傷予防と高齢者の外傷予防

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	運動生理学の概要 ① 座学
2	運動生理学の概要 ② 座学
3	運動生理学の概要 ③ 座学
4	運動生理学の概要 ④ 座学
5	競技者の外傷予防 ① 座学
6	競技者の外傷予防 ② 座学
7	競技者の外傷予防 ③ 実技
8	コンディショニング ① 実技
9	コンディショニング ② 実技
10	コンディショニング ③ 実技
11	コンディショニング ④ 実技
12	コンディショニング ⑤ 実技
13	コンディショニング ⑥ 実技
14	実技テスト
15	前期復習

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	肩関節 座学
2	肩関節 実技
3	体幹 座学
4	体幹 実技
5	膝関節 座学
6	膝関節 実技
7	足関節 座学
8	足関節 実技
9	オスグット 座学・実技
10	オスグット 実技
11	高齢者の外傷予防 座学
12	高齢者の外傷予防 実技
13	高齢者の外傷予防 実技
14	実技テスト
15	後期復習

評価方法	授業態度・筆記・実技の総合評価
授業の進め方	教科書メインで進め補足に資料を提供 講義と実技を半々
注意 (学生に望むこと)	積極的・意欲的に授業を受けて欲しい
テキスト・参考書	競技者の外傷予防

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	笠原 岳人	学科・年	柔道整復医療科 3年
科目名	リハビリテーション医学	曜日・時間	水曜日 10:40～

【授業概要・目標】 柔道整復師として必要なリハビリテーションの知識や治療技術の習得を目標とする。
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	リハビリテーション医学の歴史と発展
2	リハビリテーション医学の展開
3	リハビリテーション医学の関連職種
4	リハビリテーション医学の現状と課題
5	評価法① 姿勢評価と歩行分析
6	評価法② 身体計測(四肢長・四肢周径)
7	評価法③ 関節可動域・徒手筋力検査
8	評価法④ 日常生活動作評価・協調性テスト
9	運動療法① 運動療法の種類と内容
10	運動療法② 上下肢の運動療法
11	運動療法③ 体幹の運動学療法
12	治療法① 運動療法・作業療法・言語療法
13	治療法② 物理療法・補装具
14	前期講義のまとめ
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	肢体不自由
2	廃用症候群
3	疾患① 脳血管障害
4	疾患② 脊髄損傷
5	疾患③ 小児疾患
6	疾患④ 関節リウマチ
7	疾患⑤ 糖尿病
8	疾患⑥ 切断
9	疾患⑦ 精神疾患(うつ病)
10	疾患⑧ 整形外科疾患 (骨折・変形性関節症)
11	疾患⑨ スポーツ傷害
12	生活習慣病の原因と予防
13	高齢期の身体変化と介護予防
14	後期講義のまとめ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	試験の点数・レポート課題・出席状況等により総合的に判断する
授業の進め方	テキストと配布資料等を用いて行います
注意 (学生に望むこと)	各回ごとに資料を配布するのでファイル等で管理すること
テキスト・参考書	リハビリテーション医学(南江堂)

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	原田 淳 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 3年
科目名	柔道整復臨床理論Ⅴ(前期)	曜日・時間	前期) 水曜日 13:00～

【授業概要・目標】

臨床現場に必要な超音波観察装置の基本的知識・技術・読解力を学習すること。

1. 柔道整復師に必要な超音波観察法を習得する。
2. 臨床現場で超音波画像観察装置を用いインフォームドコンセントを習得する。
3. 超音波画像を用い超音波解剖学を習得する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	授業の説明 ディスカッション
2	超音波工学の基礎
3	肩関節
4	上腕部
5	肘関節
6	前腕部
7	手関節
8	指関節
9	股関節
10	大腿部
11	膝関節
12	下腿部
13	足関節
14	足趾部
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
◆	
15	

評価方法	実技試験を行います。 実技試験の中には、口頭試問、授業態度・服装等が含まれます。 超音波を使って人体を観察して絵に描いて説明して頂きます。
授業の進め方	超音波を用い人体を観察しながら参考資料画像と照らし合わせ 超音波画像の読み方を習得します。 超音波画像をプリントアウトし各部名を記入して頂きます。
注意 (学生に望むこと)	今まで習ってきた解剖学や外傷・障害の基礎が無いと読み取る事が出来無い為、 授業前に各疾患の予習・復習を行っておくようにして下さい。 * 提出用ノート・ステックノリ・ハサミを持参してください。
テキスト・参考書	参考書:『柔道整復師のための超音波観察法』(医歯薬出版株式会社) 『整形外科超音波診断アトラス』(南江堂) 『超音波でわかる運動器疾患 診断のテクニック』(メジカルビュー社)

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	総合外科	学科・年	柔道整復医療科 3年
科目名	臨床鑑別診断学(半期)	曜日・時間	後期) 水曜日 13:00～

【授業概要・目標】

救急現場やスポーツ外傷の治療においては、柔道整復師含め医師以外の人間が初期対応を求められる場合がある。そのような場合に対応できるよう、症候毎の代表的な鑑別疾患を学び、患者状態に応じた適切な応急処置を行えるようになることを目指す。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
◆	
15	

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	内臓疾患の投影を疑う疼痛
2	腰痛を伴う疾患
3	化膿性の炎症など
4	血流障害を伴う損傷
5	末梢神経症状を伴う損傷
6	脱臼骨折
7	外出血を伴う損傷
8	病的骨折および脱臼
9	意識障害を伴う損傷
10	脊髄症状のある損傷
11	呼吸運動障害を伴う損傷
12	内臓損傷の合併が疑われる損傷
13	高エネルギー外傷
14	前期まとめ
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験の結果により判定する
授業の進め方	教科書およびスライドを使用した講義形式
注意 (学生に望むこと)	
テキスト・参考書	医療の中の柔道整復

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	原田 淳 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 3年
科目名	柔道整復臨床実技 I	曜日・時間	水曜日 14:40～

【授業概要・目標】 国家試験・認定実技試験全員合格の為の知識・技術を学ぶ
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	認定実技試験の解説
2	肩鎖関節上方脱臼
3	肩鎖関節上方脱臼
4	肩関節前方烏口下脱臼
5	肩関節前方烏口下脱臼
6	肘関節後方脱臼
7	肘関節後方脱臼
8	肘内障
9	肘内障
10	下腿骨骨幹部固定・クラーメル副子固定
11	下腿骨骨幹部固定・クラーメル副子固定
12	肋骨骨折・さらしと厚紙副子固定
13	肋骨骨折・さらしと厚紙副子固定
14	前期試験
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	認定実技試験に向けて整復・固定の練習
2	認定実技試験に向けて整復・固定の練習
3	認定実技試験に向けて整復・固定の練習
4	認定実技試験に向けて整復・固定の練習
5	認定実技試験に向けて整復・固定の練習
6	認定実技試験に向けて整復・固定の練習
7	認定実技試験に向けて整復・固定の練習
8	認定実技試験に向けて整復・固定の練習
9	認定実技試験に向けて整復・固定の練習
10	認定実技試験に向けて整復・固定の練習
11	認定実技試験に向けて整復・固定の練習
12	認定実技試験に向けて整復・固定の練習
13	認定実技試験に向けて整復・固定の練習
14	後期試験
15	評価点検

評価方法	実技試験を行います。 実技試験の中には、口頭試問、授業態度・服装等が含まれます。
授業の進め方	3年間学習して来た内容を総括して 国家試験・認定実技試験の練習を行います。
注意 (学生に望むこと)	口述・質疑応答・認定実技試験内容は、前期のうちにすべて暗記し 後期では、口述しながら、整復・固定を行う事が出来るように 手と口がバラバラにならない様に練習を重ねます。
テキスト・参考書	柔整理論・柔整理論実技

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	太田 作郎 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 3年
科目名	柔道整復臨床実技Ⅱ	曜日・時間	木曜日 10:40～

【授業概要・目標】 軟部組織損傷の検査法・固定法及び脱臼の固定実技の練習、習得、 骨折・脱臼・変形・etc. X線の読影、外観の理解

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	実技授業の進め方、腱板損傷の検査実技
2	上腕二頭筋腱・ハム・大腿四頭筋の検査実技
3	膝側副・十字靱帯・半月板損傷の検査実技
4	下腿三頭筋・前距腓靱帯損傷・軟損の検査実技
5	肩鎖・肩関節脱臼の固定実技
6	肘・第2指脱臼・アキレス腱断裂の固定実技
7	足・肩関節・大腿部の軟損の固定実技
8	膝・足関節・下腿部の軟損の固定実技
9	軟損の検査実技
10	脱臼の固定実技
11	軟損の検査・固定、脱臼の固定実技
12	認定実技・校内実技・腱板損傷ビデオ
13	軟損の検査・固定、脱臼の固定実技
14	軟損の検査・固定、脱臼の固定実技
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検、前期試験解説、 軟損の検査・固定、脱臼の固定実技

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	軟損の検査・固定、脱臼の固定実技
2	軟損の検査、脱臼の固定実技
3	軟損の検査、脱臼の固定実技
4	軟損の検査、脱臼の固定実技
5	軟損の検査、脱臼の固定実技
6	軟損の検査、脱臼の固定実技
7	軟損の検査、脱臼の固定実技
8	軟損の検査、脱臼の固定実技
9	整形外科 症例X線 骨折・脱臼 1
10	整形外科 症例X線 骨折・脱臼 2
11	整骨院 症例外観X線 骨折・脱臼 1
12	整骨院 症例外観X線 骨折・脱臼 2
13	症例、骨折・脱臼・軟損 ファイル
14	症例、骨折・脱臼・軟損 ファイル
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検、後期試験解説、 症例、骨折・脱臼・軟損 ファイル

評価方法	実技試験結果、実技レポート、定期試験結果
授業の進め方	実技の繰り返し練習、実技レポート提出、X線・外観写真を見比べ判断する。
注意 (学生に望むこと)	実技練習を繰り返し行い習得する、X線・外観写真を見比べ理解する
テキスト・参考書	認定実技審査要項、柔道整復学・理論編、柔道整復学・実技編、整形外科学、 認定実技ビデオ、校内実技ビデオ、腱板損傷ビデオ、 整形外科テスト法、包帯固定学、整骨学、アスレチックトレーナー・テキスト、 整形外科・整骨院・接骨院 X線・外観写真、

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	太田 作郎 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 3年
科目名	柔道整復臨床理論Ⅳ	曜日・時間	木曜日 13:00～

【授業概要・目標】 練習問題を実施し、わからない部分の把握、柔道整復術の適応判断の理解 骨折・脱臼・変形・etc. X線の読影、外観の理解
--

<前期>	
回	授業テーマ
1	柔整練習問題 No.1 (1-1、1-2)
2	柔整練習問題 No.2
3	柔整練習問題 No.3、医用画像
4	柔整練習問題 No.4、 画像のデジタル化
5	柔整練習問題 No.5、磁気共鳴検査
6	柔整練習問題 No.6、 施術の適応判断
7	柔整練習問題 No.7、 非適応が疑われる症状
8	柔整練習問題 No.8、 内臓疾患を疑う疼痛
9	柔整練習問題 No.9、腰痛を伴う疾患
10	柔整練習問題 No.10、化膿性の炎症
11	柔整練習問題 No.11、 血流障害を伴う損傷
12	柔整練習問題 No.12、 末梢神経損傷を伴う損傷
13	柔整練習問題 No.13、 末梢神経・脱臼
14	柔整練習問題 No.14、骨折脱臼
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検、前期試験解説、 (柔整練習問題 No.29,30)

<後期>	
回	授業テーマ
1	校内実技審査、意識障害を伴う損傷
2	軟損の検査、脱臼の固定実技、 脊髄症状のある損傷
3	軟損の検査、脱臼の固定実技、 脊髄症状・脱臼
4	校内実技審査、呼吸障害を伴う損傷
5	軟損の検査、脱臼の固定実技、 内臓損傷を疑う損傷
6	軟損の検査、脱臼の固定実技、 高エネルギー外傷
7	軟損の検査、脱臼の固定実技、
8	軟損の検査、脱臼の固定実技、
9	症例、診察・骨折・脱臼・軟損 1
10	症例、診察・骨折・脱臼・軟損 2
11	症例、包帯法・テーピング
12	接骨院症例、最近の外傷 1
13	接骨院症例、最近の外傷 2
14	柔整練習問題 No.14
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検、症例、 骨折・脱臼・軟損 ファイル

評価方法	定期試験結果、練習問題結果、練習問題訂正レポート、教科書レポート。
授業の進め方	練習問題にて、わからない・あやふやなところの把握、問題訂正レポート提出、 X線・外観写真を見比べ判断する、教科書レポート提出。
注意 (学生に望むこと)	練習問題は解くだけでなく、わからない・あやふやなところを把握、 X線・外観写真を見比べ理解する。
テキスト・参考書	柔道整復学・理論編、柔道整復学・実技編、整形外科学、国家試験問題、 整形外科・整骨院・接骨院 X線・外観写真、 施術の適応と医用画像の理解、柔道整復術の適応、療養費の支給基準

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	長岡 靖彦 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 3年
科目名	整形外科科学	曜日・時間	前期)木曜日 14:40～ 後期)火曜日 10:40～

【授業概要・目標】
整形外科科学領域の疾患について、柔道整復師としての最低限の理解・判断ができるようになる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	運動器の基礎知識 整形外科診察法
2	整形外科検査法 整形外科的治療法
3	骨・関節損傷総論(1)
4	骨・関節損傷総論(2)
5	スポーツ整形外科総論,リハビリテー ション総論 / 感染性疾患
6	骨および軟部腫瘍
7	非感染性軟部・骨関節疾患(1)
8	非感染性軟部・骨関節疾患(2)
9	全身性の骨・軟部疾患(1)
10	全身性の骨・軟部疾患(2)
11	骨端症 四肢循環障害
12	神経・筋疾患(1)
13	神経・筋疾患(2)
14	予備日(前期復習)
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	身体部位別各論:体幹(1)
2	身体部位別各論:体幹(2)
3	肩甲帯および上肢の疾患(1)
4	肩甲帯および上肢の疾患(2)
5	肩甲帯および上肢の疾患(3)
6	肩甲帯および上肢の疾患(4)
7	肩甲帯および上肢の疾患(5)
8	骨盤および下肢の疾患(1)
9	骨盤および下肢の疾患(2)
10	骨盤および下肢の疾患(3)
11	骨盤および下肢の疾患(4)
12	骨盤および下肢の疾患(5)
13	予備日(後期復習)
14	予備日(後期復習)
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験の結果をもってその学期の評価とする。
授業の進め方	プレゼンテーションと板書を活用し講義形式で行う。
注意 (学生に望むこと)	予習(教科書を読み、判らない用語を調べる)をすること。各授業終了後、Google Classroomに復習問題を掲載するので、理解度を確認すること。
テキスト・参考書	『整形外科科学』南江堂

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	太田 作郎 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 3年
科目名	柔道整復臨床理論Ⅴ(半期)	曜日・時間	後期) 木曜日 14:40～

【授業概要・目標】 練習問題を実施し、わからない部分の把握

<前期>	
回	授業テーマ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
◆	
15	

<後期>	
回	授業テーマ
1	柔整練習問題 No.1 (1-1、1-2)
2	柔整練習問題 No.2
3	柔整練習問題 No.3
4	柔整練習問題 No.4
5	柔整練習問題 No.5
6	柔整練習問題 No.6
7	柔整練習問題 No.7
8	柔整練習問題 No.8
9	柔整練習問題 No.9
10	柔整練習問題 No.10
11	柔整練習問題 No.11
12	柔整練習問題 No.12
13	柔整練習問題 No.13
14	柔整練習問題 No.15
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検、 柔整練習問題 No.29,30

評価方法	定期試験結果、練習問題結果、練習問題訂正レポート
授業の進め方	練習問題にて、わからない・あやふやなところの把握、問題訂正レポート提出
注意 (学生に望むこと)	練習問題は解くだけでなく、わからない・あやふやなところを把握
テキスト・参考書	柔道整復学・理論編、柔道整復学・実技編、整形外科学、国家試験問題

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	鈴木 法日児	学科・年	柔道整復医療科 3年
科目名	関係法規	曜日・時間	金曜日 10:40～

【授業概要・目標】 国民の保健・医療・福祉の増進のため、柔整学校師の役割及び職業倫理を学ぶ。具体的には、生命倫理や人権の諸問題にも目配りしつつ、柔道整復師法その他関係法令の学習を行い、これを通じて柔道整復師として備えるべき法的思考を身につける。
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	「関係法規」について
2	法学の基礎
3	医療制度と法
4	医療法(1)
5	医療法(2)
6	医療法(3)
7	地域保健法
8	医師法(1)
9	医師法(2)
10	医師法(3)
11	その他の医療関係者と法(1)
12	その他の医療関係者と法(2)
13	その他の医療関係者と法(3)
14	その他の医療関係者と法(4)・復習
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	柔道整復師法・沿革
2	柔道整復師法・総則
3	柔道整復師法・資格法(1)
4	柔道整復師法・資格法(2)
5	柔道整復師法・資格法(3)
6	柔道整復師法・資格法(4)
7	柔道整復師法・業務法(1)
8	柔道整復師法・業務法(2)
9	柔道整復師法・施術所(1)
10	柔道整復師法・施術所(2)
11	医業類似行為
12	その他の関係法令(1)
13	その他の関係法令(2)
14	その他の関係法令(3)・復習
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	前期及び後期の試験によって評価する。
授業の進め方	レジュメ(プリント)を配布し、これに従い可能な限り平易に進めたい。
注意 (学生に望むこと)	講義を聴き、ノートをとる。法令の条文に慣れ、地道に予習と復習を行うこと。 質問を厭わないこと。
テキスト・参考書	最新版の医療六法(中央法規)必携。 参考書として、全国柔整学校協会監修・前田和彦編著「関係法規」最新版。

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	石垣 寛高 (実務経験のある教員)	学科・年	柔道整復医療科 3年
科目名	柔道整復応用実技Ⅲ	曜日・時間	金曜日 13:00～

【授業概要・目標】

柔道整復に必要な技術、知識の習得

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-1
3	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-2
4	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-3
5	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-4
6	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-5
7	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-6
8	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-7
9	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-8
10	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-9
11	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-10
12	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-11
13	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-12
14	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-13
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-14
2	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-15
3	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-16
4	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-17
5	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-18
6	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-19
7	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-20
8	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-21
9	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-22
10	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-23
11	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-24
12	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-25
13	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-26
14	骨折、脱臼、軟部組織損傷を想定しての実技、内容の確認-27
15	評価点検

評価方法	実技試験、出席、授業態度、課題提出、筆記試験の総合で判定する。
授業の進め方	実技、内容の確認
注意 (学生に望むこと)	毎回内容の予習と復習をしっかりとすること。
テキスト・参考書	柔道整復学理論編 柔道整復学実技編 その他

2025年 仙台赤門医療専門学校 シラバス

担当者名	総合外科	学科・年	柔道整復医療科 3年
科目名	外科学概論	曜日・時間	金曜日 14:40～

【授業概要・目標】
 前期は外科学の基礎となる総合的な事項を、後期は実臨床において遭遇することが多い代表的な外科疾患を各臓器別に授業で扱っていく。例として、筋肉痛と思いついて来院した背部痛や肩の痛みの患者さんが胃潰瘍や胆石症、心筋梗塞である場合などもあり、通年で基礎的事項を習得する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	外科総論
2	熱傷
3	炎症・感染症
4	腫瘍
5	腫瘍/症状から
6	ショック・輸血
7	輸液
8	消毒、手術
9	麻酔
10	局所麻酔
11	移植
12	出血・止血
13	心肺蘇生
14	前期まとめ
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	脳外科
2	脳外/主な疾患から
3	甲状腺・胸壁
4	肺疾患
5	心臓、心膜炎まで
6	心臓、虚血性心疾患から
7	乳腺
8	腹部外科解剖生理
9	腹部症状・検査
10	食道・胃
11	大腸
12	肝胆膵
13	ヘルニア、肛門
14	後期まとめ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験の結果により判定する
授業の進め方	教科書およびスライドを使用した講義形式
注意 (学生に望むこと)	
テキスト・参考書	外科学 医歯薬出版

科 目 名	学 年	授 業 時間数	教 員 名	実務経験	業 務 内 容
一般臨床医学Ⅰ	2	60	長岡 靖彦	20年以上	病院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
医療概論	2	30	石垣 寛高	10年以上	病院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で柔道整復の臨床をおこなっている。
柔道Ⅱ	2	60	豊嶋 良一	30年以上	接骨院を開業した経験を持ち、現在も接骨院で柔道整復の臨床をおこなっている。
社会保障制度	2	15	豊嶋 良一	30年以上	接骨院を開業した経験を持ち、現在も接骨院で柔道整復の臨床をおこなっている。
柔道整復応用理論Ⅰ	2	60	亀井 啓	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も治療院で柔道整復、鍼灸の臨床をおこなっている。
柔道整復応用理論Ⅱ	2	60	豊嶋 良一	30年以上	接骨院を開業した経験を持ち、現在も接骨院で柔道整復の臨床をおこなっている。
柔道整復応用理論Ⅲ	2	60	相澤 久敏	30年以上	接骨院を開業した経験を持ち、現在も接骨院で柔道整復の臨床をおこなっている。
柔道整復応用理論Ⅳ	2	60	高橋 武彦	20年以上	病院、治療院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で柔道整復の臨床をおこなっている。
手技療法Ⅱ	2	60	亀井 啓	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も治療院で柔道整復、鍼灸の臨床をおこなっている。
臨床実習Ⅱ	2	45	石垣 寛高	10年以上	病院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で柔道整復の臨床をおこなっている。
臨床実習Ⅲ	2	45	石垣 寛高	10年以上	病院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で柔道整復の臨床をおこなっている。
整形外科学	3	60	長岡 靖彦	20年以上	病院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で鍼灸・あん摩マッサージ指圧の臨床をおこなっている。
柔道Ⅲ	3	35	豊嶋 良一	30年以上	接骨院を開業した経験を持ち、現在も接骨院で柔道整復の臨床をおこなっている。
柔道整復臨床理論Ⅰ	3	60	塚本 直太	10年以上	治療院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で柔道整復の臨床をおこなっている。
柔道整復臨床理論Ⅱ	3	60	高橋 武彦	20年以上	病院、治療院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で柔道整復の臨床をおこなっている。
柔道整復臨床理論Ⅲ	3	60	石垣 寛高	10年以上	病院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で柔道整復の臨床をおこなっている。
柔道整復臨床理論Ⅳ	3	60	太田 作郎	30年以上	接骨院を開業した経験を持ち、現在も接骨院で柔道整復の臨床をおこなっている。
柔道整復臨床理論Ⅴ(前期)	3	60	原田 淳	30年以上	接骨院を開業した経験を持ち、現在も接骨院で柔道整復の臨床をおこなっている。
柔道整復臨床理論Ⅴ(後期)			太田 作郎	30年以上	接骨院を開業した経験を持ち、現在も接骨院で柔道整復の臨床をおこなっている。
柔道整復応用実技Ⅰ	3	60	亀井 啓	30年以上	治療院を開業した経験を持ち、現在も治療院で柔道整復、鍼灸の臨床をおこなっている。
柔道整復応用実技Ⅱ	3	60	石垣 寛高	10年以上	病院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で柔道整復の臨床をおこなっている。
柔道整復応用実技Ⅲ	3	60	石垣 寛高	10年以上	病院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で柔道整復の臨床をおこなっている。
柔道整復臨床実技Ⅰ	3	60	原田 淳	30年以上	接骨院を開業した経験を持ち、現在も接骨院で柔道整復の臨床をおこなっている。
柔道整復臨床実技Ⅱ	3	60	太田 作郎	30年以上	接骨院を開業した経験を持ち、現在も接骨院で柔道整復の臨床をおこなっている。
臨床実習Ⅳ	3	45	高橋 武彦	20年以上	病院、治療院での勤務経験を持ち、現在も学校付属の治療所で柔道整復の臨床をおこなっている。
合計		1295			